資料

第2回

札幌市廃棄物減量等推進審議会
資源化部会資料

令和8年（2026年）10月26日（月）13:15

INDEX

1　報告事項

1　報告事項

指定ごみ袋に関する臨時的対応期間中のごみ排出量 ―― P.2

市民参加の取組状況（オープンハウス） ―― P.3

分別・リサイクルに関する事業者アンケート ―― P.5

2　次期計画における取組の方向性

3　今後の予定

指定ごみ袋に関する臨時的対応（6/15～9/30）期間中のごみ排出量

燃やせるごみ

（単位：トン）

	4/1～6/12	6/15～30	7月	8月	9月	期間合計※1	10/1～15（速報値）
R８年度	45,703	11,929	21,113	21,563	23,028	77,632	9,298
前年同期比※2	▲1.4%	+4.1%	+7.3%	+6.4%	+18.8%	+9.7%	▲4.7%
R７年度	46,365	11,460	19,685	20,262	19,378	70,784	9,758

燃やせないごみ

（単位：トン）

	4/1～6/12	6/15～30	7月	8月	9月	期間合計※1	10/1～15（速報値）
R８年度	2,587	672	1,418	1,284	1,974	5,348	415
前年同期比※2	▲6.2%	+19.2%	+53.8%	+55.0%	+93.2%	+60.3%	▲28.3%
R７年度	2,756	564	922	828	1,022	3,337	579

参考

（単位：トン）

	びん・缶・ペットボトル		容器包装プラスチック		雑がみ		枝・葉・草	
	4/1～6/12	6/15～9/30	4/1～6/12	6/15～9/30	4/1～6/12	6/15～9/30	5/1～6/12	6/15～9/30
R８年度	5,997	9,125	5,871	8,133	3,678	4,805	3,166	8,463
前年同期比※2	▲3.2%	▲3.9%	▲2.1%	▲4.6%	▲1.0%	▲5.4%	+1.0%	+13.6%
R７年度	6,197	9,498	5,996	8,524	3,715	5,082	3,135	7,449

※1　臨時的対応期間の合計　　※2　同一曜日の比較であり、Ｒ８とＲ７で日付は異なる（例：R8は6/15～6/30で、R7は6/16～7/1）

1 報告事項

市民参加の取組状況（オープンハウス）

■ 日時

2026年（令和8年）9月14日（月）～15日（火）

■ 場所

チ・カ・ホ北3条交差点広場

■ イベント名

３Ｒでごみ減量～いき（域）いき（活き）循環in北海道～

■ 方法

①札幌市のごみ減量・資源循環について出展
②リユースと資源循環について、パネル各１枚を展示し質問
③シールを貼って回答を収集

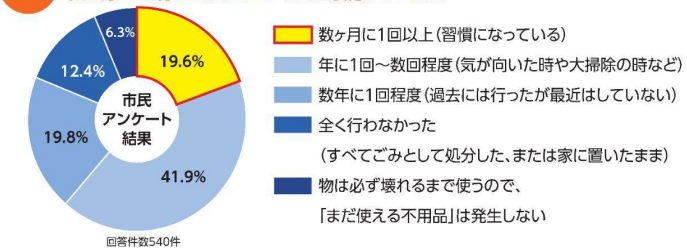
「捨てる」の前に、次の誰かへ

～まだ使えるモノを当たり前にリユースする暮らし～

Think Green

背景 将来に向けて、安心して暮らせる街であり続けるためには、ごみを減らす工夫が欠かせません。その身近な工夫として、また使える物を捨てずに活かす「リユース」があります。不要品を捨てずに、必要とする誰かにつなぐリユースを「日常の当たり前」にしてみませんか。

現状・課題 札幌市民向けにアンケートした結果では、19.6%の方が「売る・譲る」を数か月に1回行っており、リユースを習慣化しています。



回答件数540件

リユースを利用しない理由としては、「手続きや梱包作業が面倒」、「見知らぬ人との取引やトラブルが不安」といったご意見が多くありました。

Q1：「使わなくなったもの」のリユース（売る・譲る）をさらに普及させるには、どんな仕組みが必要だと思いますか？あてはまるものにシールを1枚貼ってください。

パッと確認！ 持ち込む前に、買い取り・引き取りができるのか、どのくらいの金額になるのかがアプリ等ですぐにわかる	
おうちで完結！ 自宅まで回収・買い取りに来てくれる	
安心！ 個人情報を知られずに安心して利用できる	
見つけやすい！ 売れる場所や譲れる場所を地図などで簡単に探せる	
ちょっとおトク！ 持ち込むだけでポイントやクーポンなどの特典がもらえる	
その他 自由回答（任意）	

分ければ生まれ変わる！

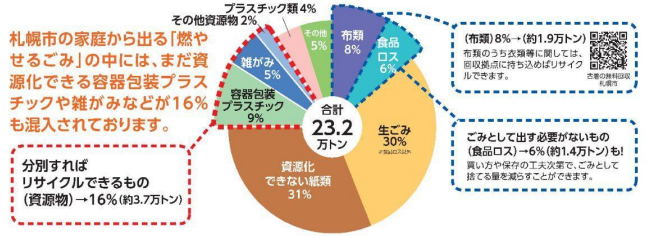
～みんなで広げる 資源循環の輪～

Think Green

背景 みなさんの毎日の分別が、新しい製品への生まれ変わりやCO_2削減、埋立地の延命を支えています。この大切な資源循環の輪を、誰もがもっと無理なく、心地よく続けられる仕組みにしていきませんか。

新しい製品への生まれ変わり（例）

現状・課題 札幌市の家庭から出る「燃やせるごみ」の中には、まだ資源化できる容器包装プラスチックや雑がみなどが16%も混入されております。

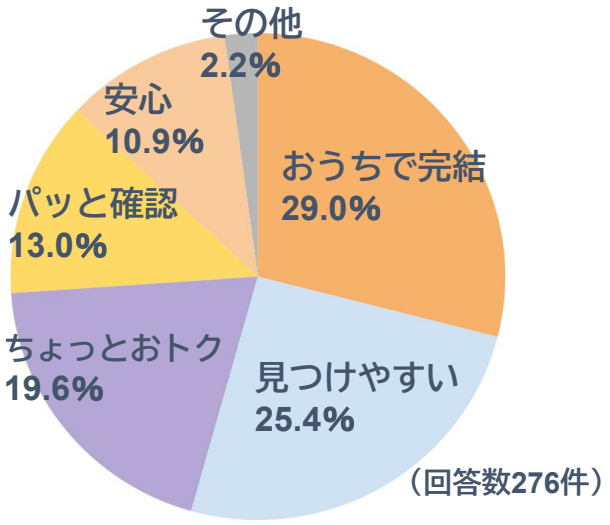


Q2：「分別による資源循環・リサイクル」をさらに進めるには、どんな後押しが必要だと思いますか？ あてはまるものにシールを1枚貼ってください。

成果が見える！ 自分の分別がどう役立ったか（CO_2削減や再商品化など）手応えが実感できる	
迷わず分けられる！ 「これって何ごみ？」と迷ったとき、スマホ等ですぐに確認できる	
回収拠点の充実！ ごみステーションへ出す以外に、いつでも持ち込める回収拠点（スーパー、公共施設）などの選択肢が充実している	
年代に合わせて学べる！ 子どもから高齢者まで、年代に合わせた分かりやすい学びや情報を得ることができる	
置き場所スッキリ！ かさばる「資源ごみ（容器包装プラや雑がみ等）」を、省スペースでスッキリためておく工夫やアイデアがわかる	
その他 自由回答（任意）	

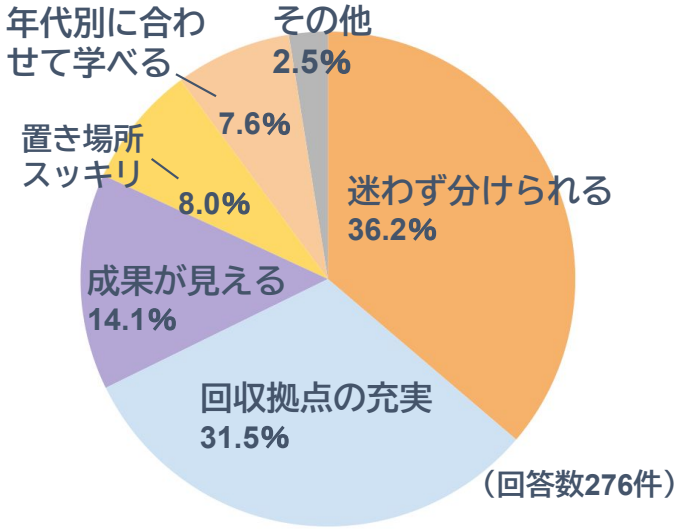
市民参加の取組状況（オープンハウス）

Q1 「使わなくなったもの」のリユース（売る・譲る）をさらに普及させるにはどんな仕組みが必要だと思いますか？



おうちで完結	自宅まで回収・買取に来てくれる
見つけやすい	売れる場所や譲れる場所を地図などで簡単に探せる
ちょっとおトク	持ち込むだけでポイントやクーポンなどの特典がもらえる
パッと確認	買取・引き取りの可否や金額が、事前にアプリ等ですぐにわかる
安心	個人情報を知られずに安心して利用できる
その他	自由回答

Q2 「分別による資源循環・リサイクル」をさらに進めるには、どんな後押しが必要だと思いますか？



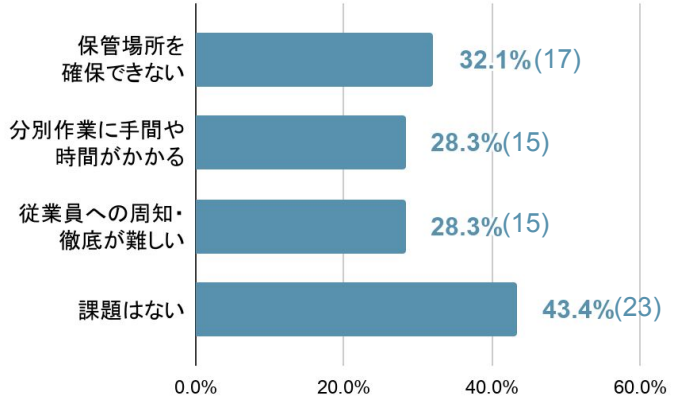
迷わず分けられる	「これって何ごみ？」と迷ったとき、スマホ等ですぐ確認できる
回収拠点の充実	スーパーや公共施設など、いつでも持ち込める回収拠点がある
成果が見える	分別がどう役立ったか(CO2削減や再商品化など)を実感できる
置き場所スッキリ	かさばる資源ごみを省スペースでためておく工夫がわかる
年代別に合わせて学べる	子供から高齢者まで、年代に合った学びや情報が得られる
その他	自由回答

分別・リサイクルに関する事業者アンケート（古紙の分別・資源化）

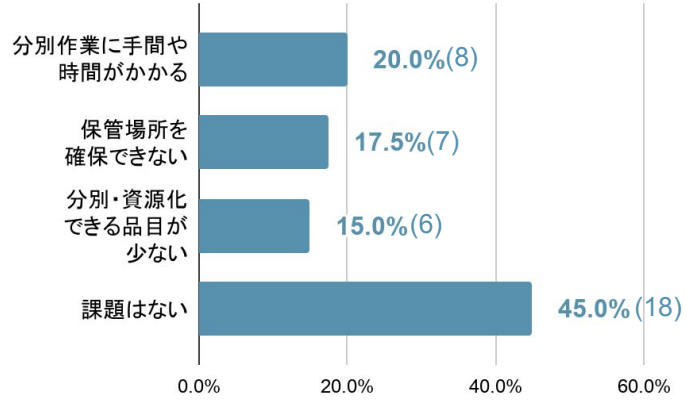
【事業系ごみ排出実態及びリサイクル等の取組状況の把握に関するアンケート結果（速報値）より（一部抜粋）】
・実施時期：令和８年９月、送付先：札幌市内事業者　1,900業者、回答数：195件、設問数：27問（内以下３問を抜粋）

Q12 古紙について、分別・資源化を進める上で課題となっていることを選んでください。（複数回答可）　単位:（件数）
※回答は課題ありのうち上位３項目の抜粋　（各業種、各選択肢ごとの人数区分については、データ集11-4を参照）

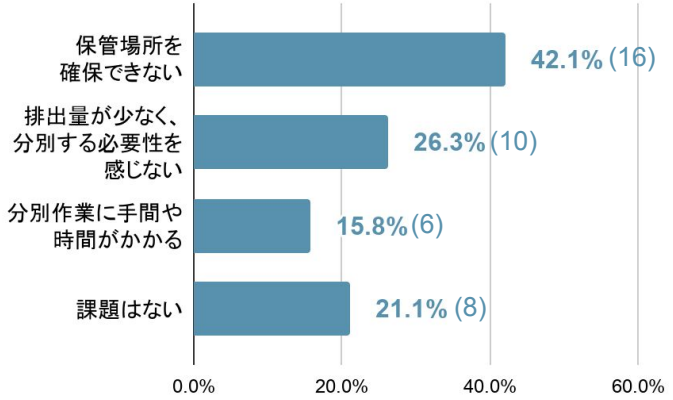
医療・福祉（N=53社）



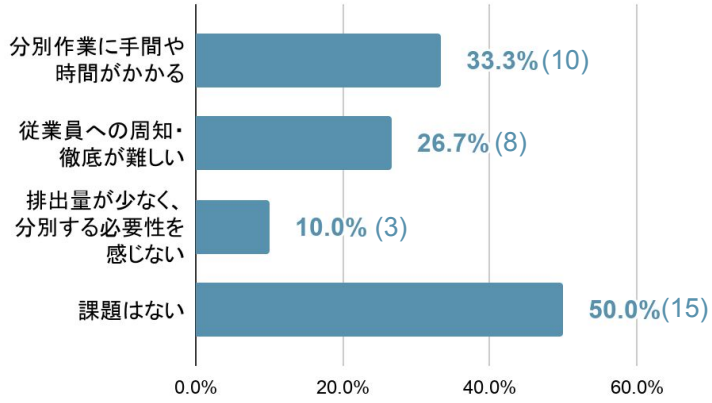
小売・卸売（N=40社）



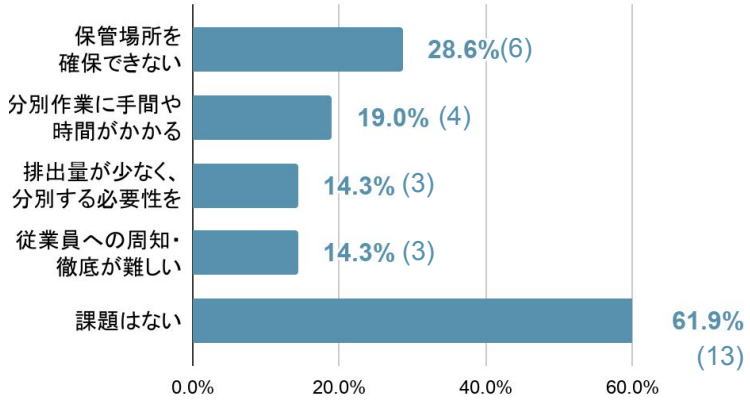
飲食・宿泊（N=38社）



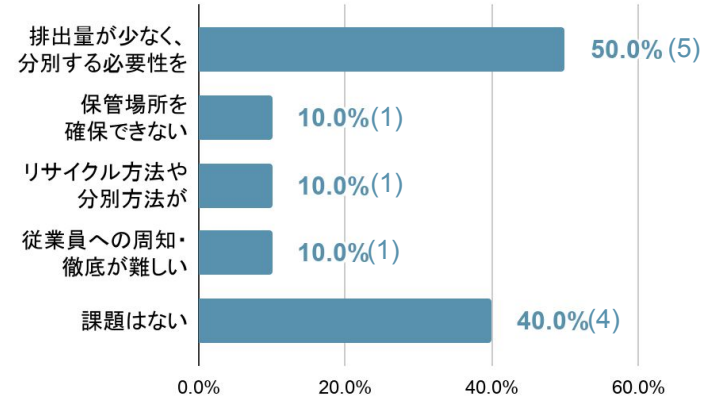
建設・設備・工事（N=30社）



オフィス・サービス（N=21社）



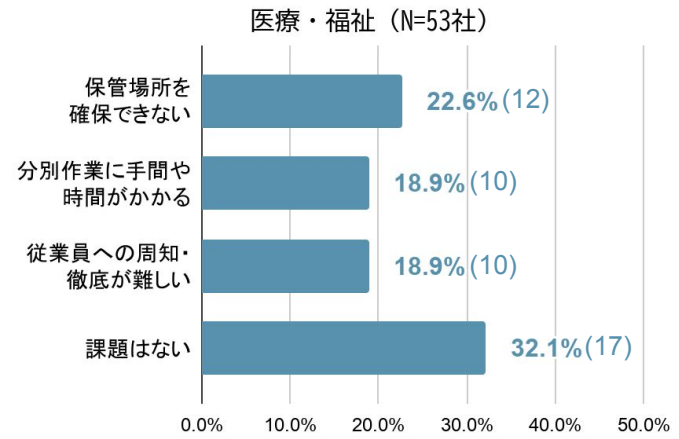
製造・加工（N=10社）

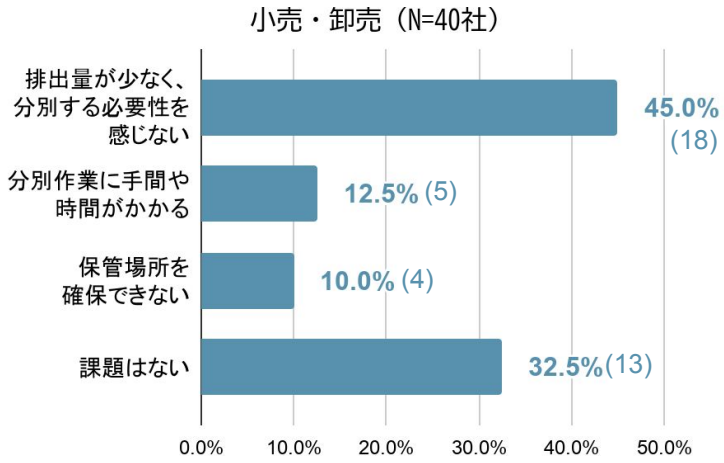


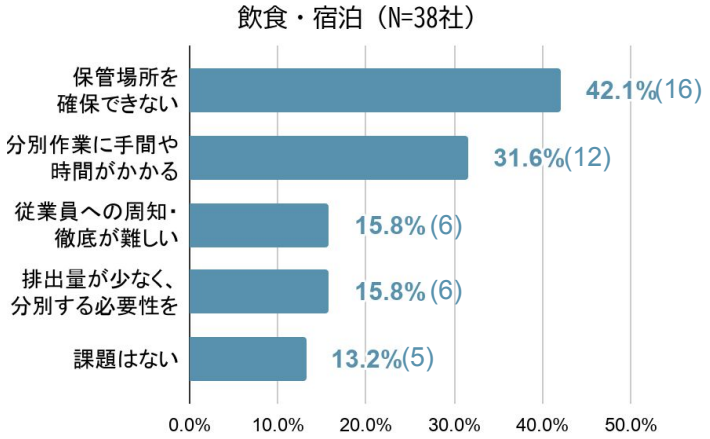
分別・リサイクルに関する事業者アンケート（生ごみの分別・資源化）

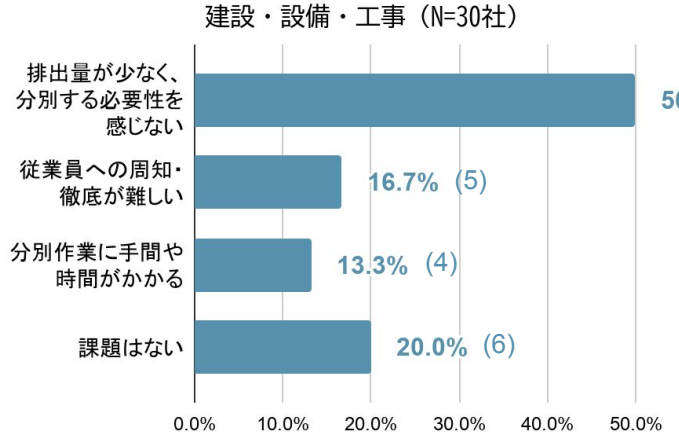
Q17 生ごみについて、分別・資源化を進める上で課題となっていることを選んでください。（複数回答可）　単位：（件数）

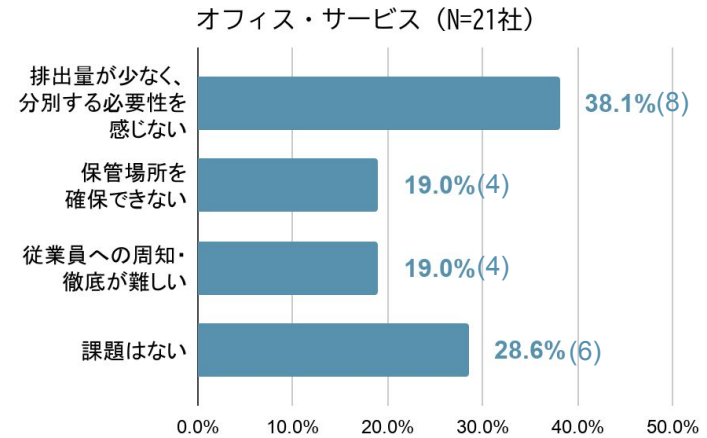
※回答は課題ありのうち上位３項目の抜粋　（各業種、各選択肢ごとの人数区分については、データ集11-5を参照）

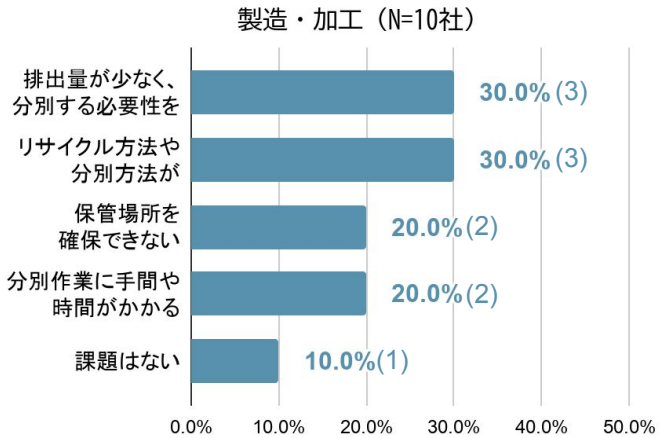












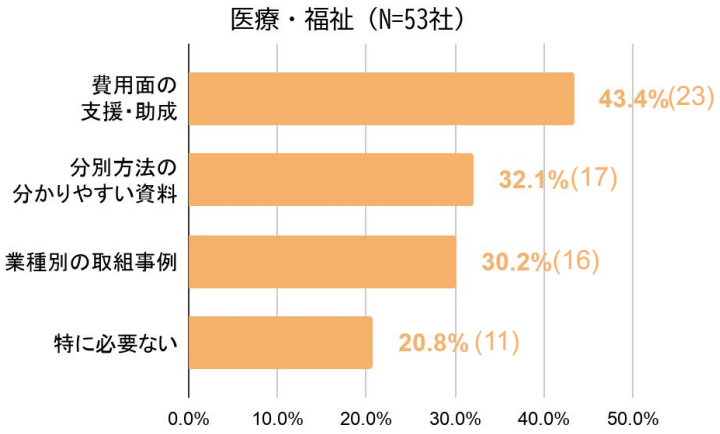
分別・リサイクルに関する事業者アンケート（必要な支援）

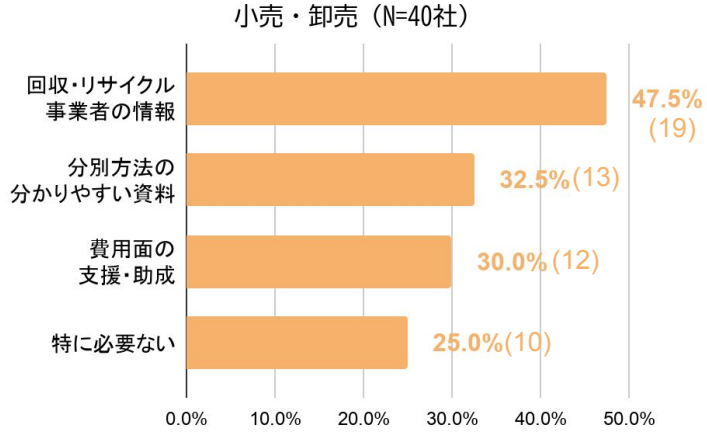
Q26 どのような支援があれば、ごみ減量、リサイクルに取り組みやすくなると思いますか。（複数回答可） 単位:（件数）

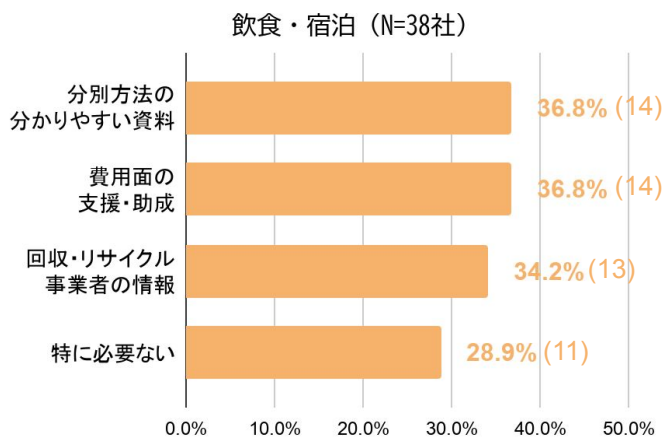
※回答は上位３項目の抜粋 （各業種、各選択肢ごとの人数区分については、データ集11-7を参照）

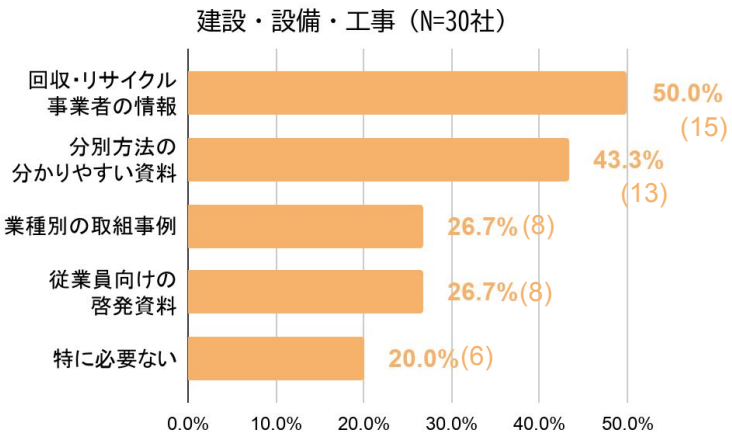
全業種の上位３項目

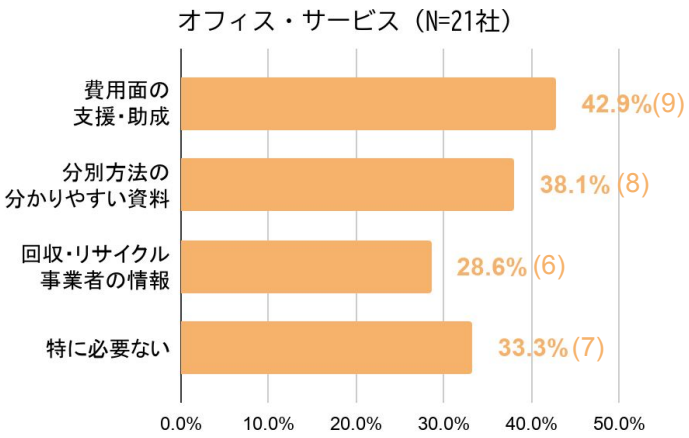
①回収・リサイクル事業者の情報　36.4%　②分別方法の分かりやすい資料　35.9%　③費用面の支援・助成　34.4%

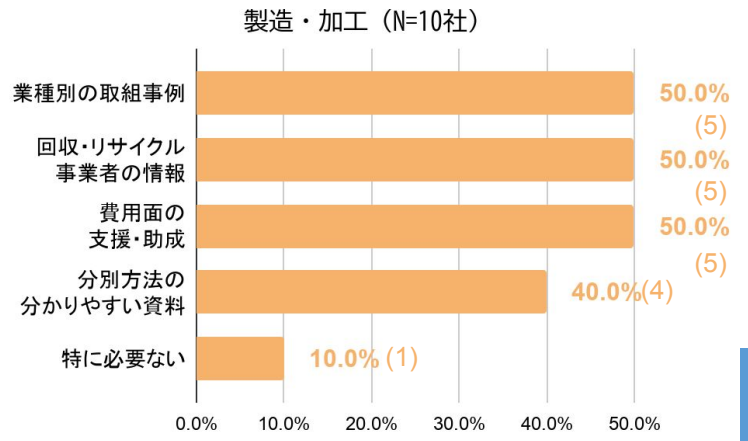












INDEX 2

2　次期計画における取組の方向性

1　報告事項

2　次期計画における取組の方向性　P.9

3　今後の予定

次期計画における取組の方向性

今までの審議会や部会でご議論いただいた内容を踏まえ、次期計画における取組の方向性を以下の５項目に分類した。

01

効果的な分別・排出ルールの周知

02

事業ごみのリサイクルの効果的な推進

03

新たな分別・リサイクルの検討（製品プラ・紙おむつ）

04

持続可能な集団資源回収体制の構築

05

既存資源化事業の最適化

1　効果的な分別・排出ルールの周知

【参照：第1回部会資料 P.11～15】

審議会・部会における主な意見	次期計画の取組の方向性
【分別ルールの広報】 ● 定番化した息の長い取組を行うことが重要（2R部会の意見） ● 若者はSNS（InstagramやTikTok）で流れてくるものを見ていることから、SNSの活用による普及啓発が効果的 ● ごみ分別アプリのダウンロードがハードル ● 転入者や一人暮らしを始めた大学生・会社員への周知・意識付けが重要 ● 近年、東南アジア等の方々が増えているため、ごみ分別アプリやごみ分けガイドの対応言語を増やすべき	【周知媒体の最適化とデジタル化】 ● 「ごみ分けガイド」や「ごみ分別アプリ」の周知・充実が必要 ● SNS等のデジタル媒体によるプッシュ型通知の活用や、大学等との連携など、今後の周知のあり方の検討をすべき ● 「ごみ分別アプリ」などを利用するまでのハードルを下げるための取組や、市民が気軽に利用できる媒体の活用が必要 ● 転入者・学生・外国人など、ルール周知が特に必要な層にターゲットを絞り、共同住宅の管理会社や大学等と連携した効果的な普及啓発を検討すべき
【分別の仕組み】 ● 根性論や意識啓発による分別の推進には限界があるため、製品プラスチック一括回収のような市民が無理なく自然に協力できる仕組みが分別意欲を高める取組として大事	【市民にわかりやすい分別のルール作り】 ● 市民にとってわかりやすく、自然に分別できる仕組みを作ることを検討すべき
【市民意識の向上】 ● 回収されたプラスチックなどの資源物が、実際にどのようなものに再商品化されているかを発信することで、分別や環境問題に対する市民の意識も高まるのではないか ● 竹などの堆肥化されず残渣になるものや、農薬や除草剤が残る堆肥化不適物も排出されている現状がある。本当のリサイクルとは何かという市民教育が必要 ● 容器包装プラスチックは、自治体だけでなく市民も企業も関わる仕組みであることを知らない人が多い	【分別意識の向上】 ● 市民の分別意識を高めるため、分別した資源がどのように生まれ変わるかや、環境問題にどのように寄与しているかなどについて発信・教育する必要がある

2 事業ごみのリサイクルの効果的な推進

【参照：第1回部会資料 P.19～21】

審議会・部会における主な意見	次期計画の取組の方向性
【生ごみ分別の促進】 ● ショッピングモールやフードコートなど店が集中しているところを調査のターゲットとし、食品ロス削減とセットで生ごみリサイクルをお願いすることが得策 ● 店が入れ替わるときに周知する仕組みづくりも大事 ● 生ごみリサイクルについて、飲食店・スーパー・ホテル等、事業者の経済的メリットが大きいところをターゲットとしていくことが大事	【生ごみリサイクルの拡大】 ● リサイクル施設や収集運搬事業者と連携しながら、飲食店やスーパー等、生ごみの排出量が多い事業者を中心に分別収集・資源化の働きかけを強化すべき ● 生ごみの分別促進にあたっては、食品ロス削減の周知と一緒に働きかけを行うことが有効
【事業者の自主性】 ● 事業者の環境への意識は、時代によってベクトルが変わるため、脱炭素やネイチャーポジティブの視点で、ごみの削減等が環境負荷低減に寄与するという情報発信を行い、事業者に響く形で事業系ごみの削減やリサイクルを組み込む必要がある ● 民間同士で接点を持って取組めるようなことが生まれると良い ● 他都市のように事業者の自主的な取組を積極的に紹介すると事業者側もやりがいにもつながる ● 事業者の取組を見える化していくといい ● 事業系紙ごみの分別について、事業者側に金銭的インセンティブが働きにくい現状があるため、燃やせるごみを排出する際の負担（処理コスト等）が増えない限り、事業者による自主的な分別・資源化を進めるのは厳しい	【インセンティブ等の検討】 ● ごみ減量や資源化が脱炭素、環境負荷低減に寄与し、事業者のメリットにつながる視点を取り入れた情報発信や啓発が効果的 ● 分別手法の工夫やリサイクルのノウハウなど事業者が参考にしやすい実践例等を紹介し、優良事例の広がりを推進することが必要 ● より分別に取組むインセンティブが大きくなるような手数料体系の検討が必要 【事業系古紙の再資源化】 ● 古紙回収協力店や民間インフラ等の情報を効果的に発信・案内し、事業者の紙類の分別・リサイクルを推進することが必要

3　新たな分別・リサイクルの検討（製品プラ・使用済紙おむつ）

【参照：第1回部会資料 P.23～25】

審議会・部会における主な意見	次期計画の取組の方向性
【製品プラスチック】 ● 製品プラスチックを容器包装プラスチックと一緒に排出できる自治体に住んでいたが、市民にとって非常に分かりやすく、プラ製品を集める手段としても効果的だと感じた ● 自治体負担が大きいので、拡大生産者責任を求めるべき ● リチウムイオン電池の混入による火災リスクがある	【製品プラスチックリサイクルの検討】 ● 製品プラスチックと容器包装プラスチックの一括収集とするなど、市民にとって分かりやすいプラスチック収集を推進すべき ● 拡大生産者責任に基づく仕組みづくりについて、国に強く求めていくべき ● 製品プラスチックの再商品化に係る追加コストや、リチウムイオン電池への対応などの課題を踏まえ、様々な事業手法を比較検討し、円滑な実施に向けた体制構築が必要
【使用済紙おむつ】 ● 紙おむつリサイクルは、焼却施設を持たず埋立を減らす目的の市町村で実施されていることが多く、大半の自治体では焼却されているのが現状 ● 家庭系の紙おむつまで分別回収を広げると仕組みづくりが困難なため、介護施設などまとめて排出される事業系から始めていくのが現実的	【使用済紙おむつリサイクルの検討】 ● 高齢化の進展に伴う排出量の増加を見据え、近郊のリサイクル施設等の運用状況や課題等についての情報収集が必要 ● 家庭系の収集体制には、衛生面やコスト面で課題が多いことから、まずはまとまった排出が見込まれる高齢者施設等の事業系を対象とした検討が有効

4　持続可能な集団資源回収体制の構築

【参照：第1回部会資料 P.16～18】

審議会・部会における主な意見

- 紙類の減少などにより回収効率が落ち、回収事業者の負担が増えているのではないか
- 取扱品目を増やすなど、集団資源回収の仕組みを推進していく余地があると思う

次期計画の取組の方向性

【効率的な実施体制】

- 集団資源回収を将来にわたり維持・存続させるため、効率的な回収体制の構築に向けた検討が必要

【回収量の確保】

- 集団資源回収における回収品目の追加等、回収量の確保に向けた仕組みづくりが必要

5 既存資源化事業の最適化（枝・葉・草、焼却灰リサイクル）【参照：第1回部会資料 P.22・26～28】

審議会・部会における主な意見

【枝・葉・草】
- 有料化の際に、市民の減量努力が難しいものを有料化の対象としないために分別収集が始まったもの
- 枝・葉・草の堆肥化後の残渣活用が困難であれば、無料収集を維持した上で、堆肥化を経ずに直接焼却へ回す方が適当ではないか
- 資源化を進める観点からすると堆肥化が厳しいと結論を出すのは苦しい部分もあるが、人手なども限られた中でリソースをどう有効に使うかが重要
- 現在でも民間の生ごみの堆肥化施設において収集した枝・葉・草の一部が活用されているので、全て焼却に移行するということではなく、需要に応じたやり方が必要
- それ以外にも、回収拠点に直接持ち込めばリサイクルできるなど、多様な枝・葉・草のリサイクルのやり方を市民に見せいくことが大事

【焼却灰リサイクル】
- 埋立地は限りがあるため、できるだけ多くリサイクルを行うことが望ましい
- 焼却灰リサイクルに係る民間施設での受入費用や輸送費用が上がっていく場合には、バランスを考慮する必要がある

次期計画の取組の方向性

【枝・葉・草リサイクル事業の最適化】

- 枝・葉・草から生産した堆肥は、品質や輸送コスト等の面で需要が限定的であり、さらなる需要喚起に向けた品質・効率改善にも限界がある
- そのため、民間施設での堆肥化も活用しながら、堆肥化の規模を需要に合わせつつ、残る枝・葉・草については熱回収を含む多様な形での有効活用を検討すべき

【焼却灰リサイクルの継続・拡大】

- 最終処分場の延命化のため、焼却灰リサイクルを継続・拡大すべき
- ただし、民間施設での受入可能量、鉄道での輸送可能量、費用などバランスを考慮する必要がある

INDEX 3

3　今後の予定

1　報告事項

2　次期計画における取組の方向性

3　今後の予定　P.16

3　今後の予定

令和8年度（2026年度）
令和9年度（2027年度）

現状把握・課題抽出

- 導入
  - 5月21日　9:30～：第1回審議会
- 現状
  - 7月 7日　9:30～：第2回審議会
- 重点テーマ
  - 8月 5日　13:30～：第3回審議会

方向性検討

- 重点テーマを集中審議

資源化部会		２R部会	
9月 2日	9:30～：第1回部会	9月 2日	13:00～：第1回部会
10月26日	13:15～：第2回部会	11月 6日	17:00～：第2回部会
12月17日	9:30～：第3回部会	12月15日	9:30～：第3回部会

- 部会の報告
  次期計画の方向性
  - 1月15日　15:00～：第4回審議会
  - 3月18日　9:30～：第5回審議会

まとめ

- 答申の方向性
  答申の主な内容
  - 4月末～6月中旬　第6～7回審議会
  - 6月下旬～7月　起草委員会の開催
- 答申案
  - 8月頃　第8回審議会
- 計画案報告
  - 11月～12月　第9回審議会

「次期計画」策定